〝通り魔汚染〟

～空きカン公害を考える～

近くにクズかごもないし、一つぐらいはいいだろう――と、投げ捨てられる空カンその後始末には大変な苦労がいります。年間百億個といわれる空きカンのすべてが回収されるわけではありませんから、散乱する空きカンの数は、ぼう大な量になります。投げ捨てられた空きカンは街や自然の美観を損うばかりでなく、回収・再資源化つまり省資源・省エネルギーの点でもマイナスです。それともう一つ――〝空きカン公害〟は、わたしたちの公徳心に正面から疑問を投げかけています。

家族そろって近くの行楽地へピクニック。さて弁当を広げようと思っても、いたるところ空きカンや紙クズが散乱していてなかなか適当な場所が見つからない――せっかくのピクニック気分に水をさされたという経験は、どなたも一度や二度はあることでしょう。

▲「だれも見ていないから」と空きカンをポイ

空きカンの散乱場所〝ワースト3〟

環境庁の調査によると、空きカンやゴミの散乱場所で一番多いのが「道路とその周辺」で、次いで「河川敷」となっています。

空きカンの散乱場所で最も多い「道路」が半分以上も占めており、ドライバーや観光客が通りすがりに投げて捨てる空きカンがいかに多いかわかります。

▲わずか50㎜の間に約100本もの空きカンが…（大滝の国道で）

〝道路沿いの人には降ってわいた環境汚染〟

道路といえば、その近くに住む人たちにとって日常生活の場です。

また、田んぼに投げ捨てられた空きカンで農作業に支障をきたしています。

ドライバーの皆さんにとっては〝気軽に空きカンをポイ〟という行為も、そこで暮らす人たちにしてみれば、生活環境に外なりません。いわば〝通り魔汚染〟とでもいいましょうか。

「あとは野となれ、山となれ」という、自分勝手な行動が自然をそして道路の近くに住む人たちを傷つけているのです。

一人ひとりが、心したいものですね。

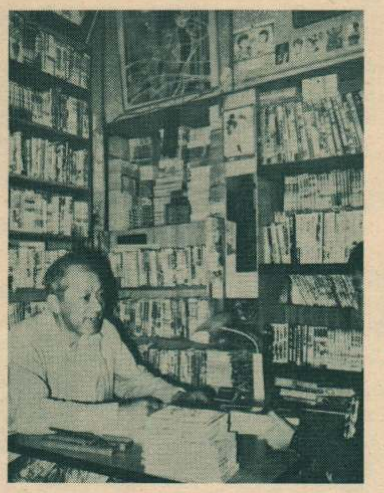
再資源のエース　アルミカン

アルミカンは、ポーキサイトだけでできているため古カンから新しいカンに再生できます。

そのうえ、回収カンを再生してアルミカンの地金をつくるときのエネルギーは、原料から新たに製造する場合に比べて二十七分の一ですむという、大きな省エネ効果があります。

省資源、省エネルギーの面からも空きカンの〝ポイ捨て〟をやめ、設置されたクズかごを使うようにしましょう。

ガンバってます



まんが本の貸本屋さん　加賀孝治さん（田代町）

「採算はとれないが、常連のお客さんが毎日来てくれるので止められません」と笑う加賀さん。県内でも珍しくなったまんが本の貸本屋さんです。昼は書店回わりをして本を買い集め、午後五時から九時まで南町で開店、店内の蔵書数はざっと五千冊です。家にはこの倍以上のまんが本があり、現在倉庫を建設中です。

貸本屋をして今年で二十五周年。これを記念して今まで集めたまんが家自筆の色紙や昔懐かしい本、付録などの展示会を正札で開きました。

毎月5日は「少年の日」

第1回・きころ・題込・

非行のない社会をつくるため、こ全県一斉に、毎月五日を「少年の日」に定めました。

少年非行の傾向としては、年々低年齢化し、とりわけ中学生の非行が一層めだってきたのが最近の特徴です。そこで全県一斉に毎月五日を「少年の日」とし、地域ぐるみ家族ぐるみで少年を非行から守ろうということにしたものです。

私たちも、ポルノ雑誌の自動販売機や不健康な溜り場を、地域からなくする方法を考えてみましょう。

家庭では、親と子供の対話を深めてください。常に子供と一緒になって歩み、生きることの厳しさに触れさせ、子供の健全育成に努めていただきたいと思います。

少年の非行問題についてのご相談は、少年補導センター（市役所内）か大館警察署少年係へ

市長の対話ノート

▲ラジオ体操開始会場で

No. 51

子供の健全な成長を願って

五月五日は子供の日、子供の健やかな成長を祝う日です。

大館でもラジオ体操開始会に、早朝四千六百名の子供さん、お父さん、お母さん、そして指導者の方々が参加して盛会でした。

「子供は社会の宝」「次代を担う子供こそ」そんな美辞麗句がよく聞かれます。あえて美辞麗句といったのは、美しい言葉だけでは子供は健やかに育たないからです。

喜怒哀楽の試練をのりこえてこそ健全な心も体も育ちますが、果たして子供の育つ環境はそうなっているでしょうか。子供たちの将来にわたる「平和」が、そしてそのきびしさが保証されているでしょうか。

親として、大人として良い環境を作ることは絶対の責任があるのではないでしょうか。

子供のもつ、可能性を発見し、育て、保証する。そこには甘えではなく、厳しさこそ薬ではないでしょうか。「運、不運ではなく、試練がすべてでありましょう」そんな意味での子供の日でありたいものです。

田植えのシーズンに入りました。初期生育が極めて大切です。水管理に万全を期し今年こそは冷害を克服しましょう。

郷土品の愛用を

情報化社会は資源の少ない日本の生きる道かも知れません。ところが自分の足元を知らないのではどうしようもないことです。

米、木材、鉱山が本場で、これを素材に二次、三次加工した地場商品はいくらでもあります。「そんな立派なものがあったら市民に正しく知らせるべきだ」と逆にお叱りを受けますが、その機会が毎年秋に開いている「産業祭」です。

中小企業であれば莫大な宣伝費を使えないので、市民自らがこれを愛用し、口コミで市場への売り込みをはかる位のことをしなければならないのではないでしょうか。

なぜならば、地場産業の振興は地域経済全体に深いかかわりあいをもち、市民全体に直接、間接に大きな貢献をしているからで、と同時に郷土の良さを再発見し、郷土愛を培うことになるからです。

郷土品を愛用し、みんなで郷土を繁栄させましょう。

佐山健治郎

消費者意識を高める週間

昨年まで、五月三十日を「消費者の日」として事業を行ってきましたが、今年から、この日を中心に「消費者意識を高める週間」を実施します。この週間の目的は、主に消費者意識の普及と向上、消費者の安全と利益を守ろうとするものです。

〈事業内容〉

期間中は、消費者意識の向上、促進を呼びかける街頭宣伝やパレードを行うほか、市民相談室で相談窓口を開設します。

このほか、同友、いとく、生協、農協、秋北ストアの各スーパー及び正札竹村などで記念割引セールが行われます。

暮らしに生かそう確かな目

・買い物は、表示や商品マークをよくみて
・印鑑は、書類をよくみてから押印を
・訪問販売品は家の人と相談してから
・景品に、まどわされない買い方を

広報特集号のお知らせ

〝水を大切に使いましょう〟